

抵抗性台木を使用する際には、深植え等で穂木が地面と接触すると効果がなくなるのでかならず穂木部分は接地しないよう移植する。

(4) ウリ科野菜の土壤病害

近年ウリ科野菜のホモプシス根腐病及びメロン黒点根腐病の発生地域が拡大する傾向にある。両病害ともに発生に気が付かずに被害が拡大している可能性があるため、毛細根を観察して、ホモプシス根腐病による黒色構造（偽子座、偽微小菌核）または黒点根腐病による黒点（子のう殻）の有無を確認する必要がある。発生ほ場における対策として、両病害ともに薬剤による土壌消毒が有効である。

4. 令和4年に新たに発生を認めた病害虫

令和4年に道内で新たに発生を認めたのは14病害虫（病害8、害虫6）であった。その一部を抜粋して紹介する。

(1) せんきゅうのジャガイモヒゲナガアブラムシ、ニンジンフタオアブラムシ（新寄主）

2種のアブラムシの寄生が認められた。1種目はジャガイモヒゲナガアブラムシで、下～上位葉まで植物体全体に寄生し、寄生個体数の多い葉では黄化や萎縮が認められる。

2種目はニンジンフタオアブラムシで、下位葉を中心に寄生する。

(2) にんじんの斑紋萎縮病（新称）

斑紋症状を伴う激しい葉の赤化や萎縮症状を示す。ニンジン黄化ウイルス、ニンジン斑紋ウイルス及びニンジン黄化ウイルス随伴RNAの三重感染による症状である。

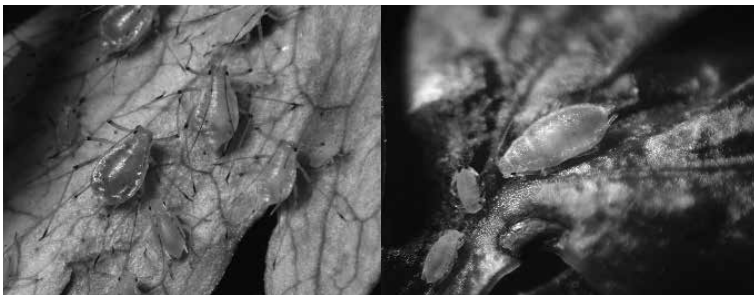


写真1. せんきゅうのアブラムシ
左：ジャガイモヒゲナガアブラムシ、
右：ニンジンフタオアブラムシ
（佐々木大介原図）



写真2. にんじんの斑紋萎縮病の発病株（吉田原図）

【補足】「特に注意を要する病害虫」および「新発生病害虫」の詳細な情報については、北海道病害虫防除所のホームページに掲載しているで、そちらもご覧いただきたい。

詳しい内容については、次にお問い合わせください。
道総研十勝農業試験場 生産技術グループ
電話（0155）62-2431 E-mail：tokachi-agri@hro.or.jp